

消費者の健康意識と酒類消費の関係調査について

(酒類情報室)

酒類情報室では平成15年2月、全国の消費者の飲酒動向を把握するとともに健康意識が飲酒にどの程度またどのように影響しているかを明らかにすることを目的として、全都道府県の20歳代から60歳代の男女各50名前後、総計約5,000名を対象とした調査を実施しました。

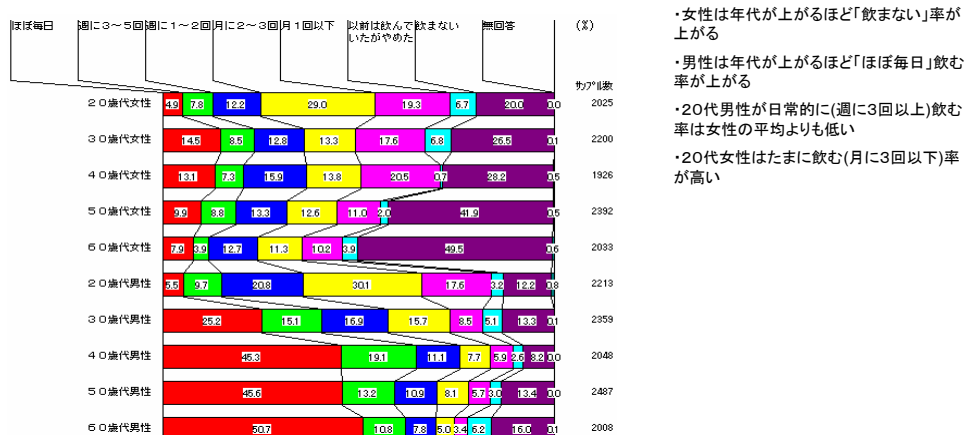
今年度はデータの分析を進め、分析結果を順次発表することとしています。

今回は年代別の飲酒動向のラフスケッチをご紹介します。

平成16年10月8日 業界専門紙記者会見資料

1

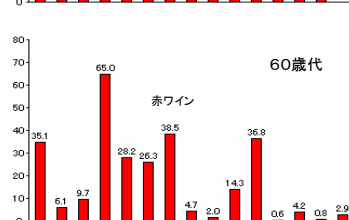
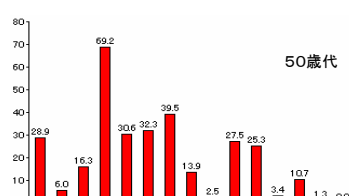
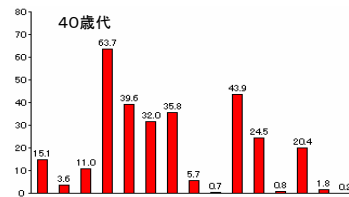
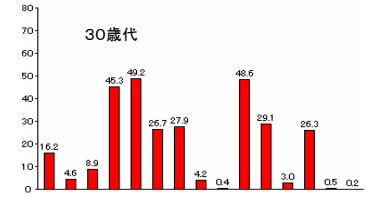
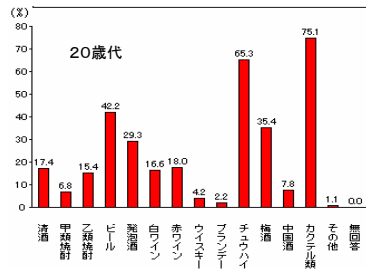
1 性別・年代別飲酒頻度



- ・女性は年代が上がるほど「飲まない」率が上がる
- ・男性は年代が上がるほど「ほぼ毎日」飲む率が上がる
- ・20代男性が日常的に(週に3回以上)飲む率は女性の平均よりも低い
- ・20代女性はたまに飲む(月に3回以下)率が高い

2

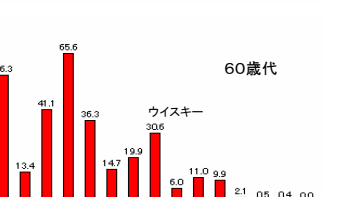
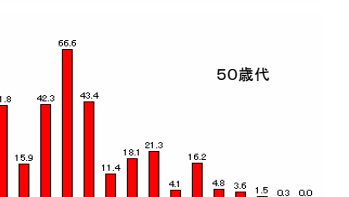
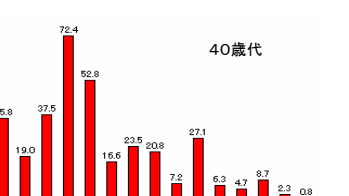
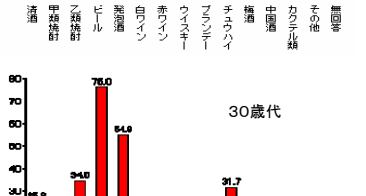
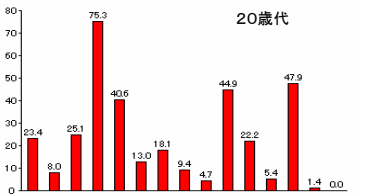
2-1 よく飲む種類-女性



- ・20歳代でチューハイ、カクテル類が多く、とくにカクテル類はビールと発泡酒の合計より多い
- ・赤ワインは年代が上がるとよく飲まれている
- ・60歳代で赤ワイン、梅酒の割合が高いが目立つ
- ・清酒と焼酎乙との比較では清酒のほうがよく飲まれている

3

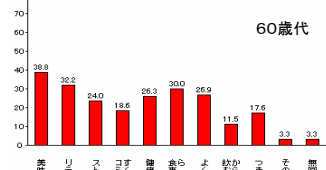
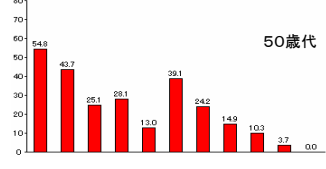
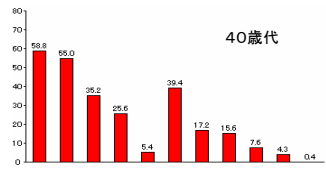
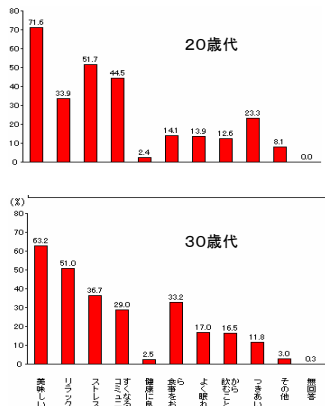
2-2 よく飲む種類-男性



- ・20歳代では「泡系」、カクテルが目立つ
- ・60歳代では清酒、ウイスキーが目立ち、女性ほどには「健康系」に向っていない

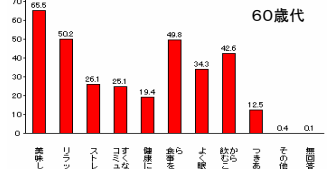
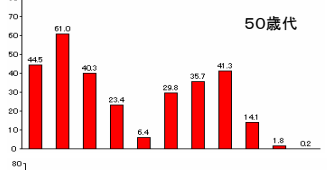
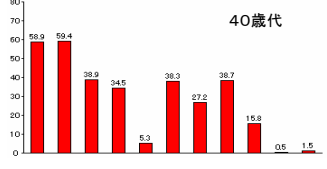
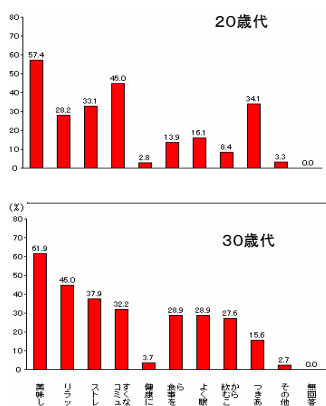
4

3-1 酒を飲む理由—女性



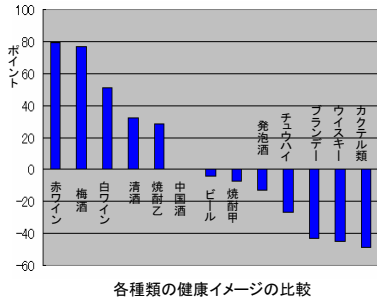
・60歳代は「美味しいから」が少ない一方「健康に良いから」が他の年代より多く、いわゆる「薬のみ」をする人が多いことが想像される。

3-2 酒を飲む理由—男性



・20歳代は他の年代と比べて男女とも「コミュニケーションがとりやすくなるから」、「つきあいで仕方なく」が目立ち、積極的、消極的の姿勢のちがいはあるが、人との交流目的の飲酒が多いことが窺われる。

4 種類別健康イメージ

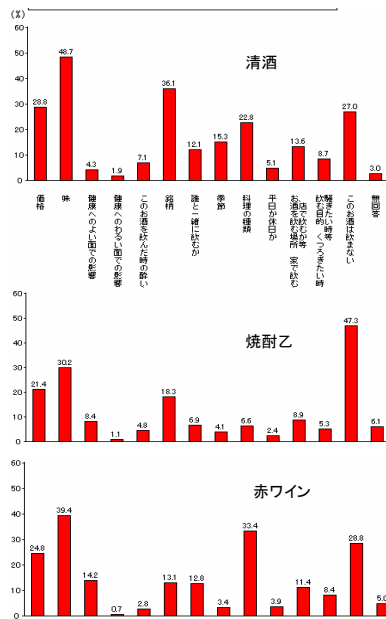


問19で非飲酒者を含む全員に各種類が健康に良いと思うかどうかを聞いた結果から、各々の選択肢のパーセンテージに重み付けをして合計点を求め比較した。最高200ポイント、最低で-200ポイントまであり得る。

重み付け

- 「健康に良いと思う」…………… +2
- 「まあ健康に良いと思う」…………… +1
- 「どちらともいえない」…………… 0
- 「あまり健康に良いと思わない」… -1
- 「健康に良いと思わない」…………… -2

5 酒を選ぶ時意識すること



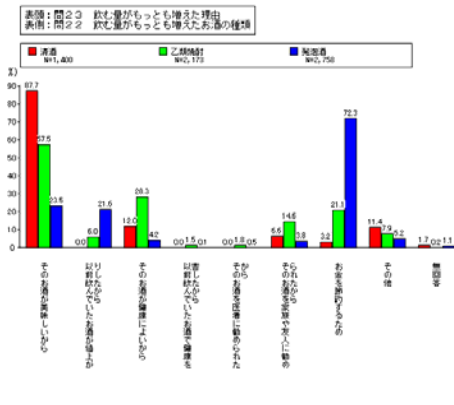
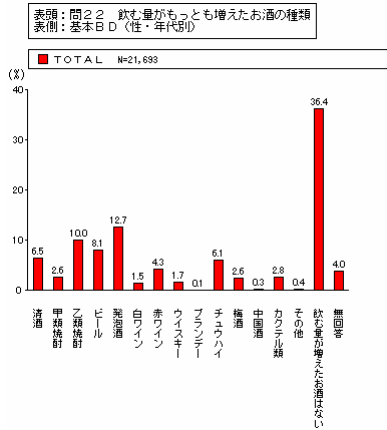
7

6 最近1年間で飲む量が最も増えた種類とその理由

・増えた種類は発泡酒、焼酎乙類、ビール、清酒の順。

理由で多いのは発泡酒は「お金を節約するため」、乙類と清酒では「美味しいから」。

とくに清酒では「美味しいから」が圧倒的。



8